

地域リハビリテーション学・摂食嚥下障害学

准教授 爲近 岳夫
Takeo Tamechika

現在の研究テーマと内容

- ・ 認知症を持つ人の生活（活動）支援に関する研究
- ・ 認知症・フレイル・オーラルフレイル予防に関する研究
- ・ 園芸などの活動を用いた作業療法に関する研究

これまでの研究成果と今後の展開

「認知症を持つ人とどのように関わればいいのか」について、いくつか研究を行い、笑顔に代表される非言語的コミュニケーションや食事という作業の支援について報告しました。今後も様々な生活（活動）支援について検討していきたいと考えています。

認知症予防に関しては、多職種によるチームで2017年から予防教室の実践を行いながら、日本認知症ケア学会などで活動内容を報告しました。その後もフレイル予防やオーラルフレイル予防のための教室を実践しており、効果検証の取り組みを継続したいと考えています。

大学院を目指すみなさんへメッセージ

「自分の目の前の大切な人を何とかしてあげたい」という気持ちがあっても、「その人にとって、最もよい支援方法は何か？」と悩んだり、「なんで、あの先輩が関わったときはうまくいくのか？」

「私が関わると、うまくいかないか」と違いは何なのかと疑問を持ったり、臨床の現場には研究の種がたくさん転がっていると思います。大学院は研究を学ぶ場です。臨床で働く方こそ、研究に向いていると思います。